

第4学年 音楽科学習指導案

日時 平成16年1月20日(火)5校時
場所 一関市立山目小学校 第2音楽室
学級 4年A組 男19名女16名 計35名
指導者 教諭 佐藤美子

1. 題材名 「みんなで合わせて」(全6時間)

2. 題材について

(1) 題材の目標

○互いの声や音を聴きながら、合唱や合奏をすることができるようにする。

○楽器の音色や声の重なりを感じ取りながら、聴いたり表現したりすることができるようにする。

(2) 題材の特徴

この題材では、これまでの鑑賞や表現の学習で身につけてきた音に対する感覚や表現の能力を生かして、響きの美しい音楽を楽しむことに重点を置いて学習を進める。歌声や楽器の音を聴きながら「合わせる活動」を行うことによって、より充実した音楽表現を体験させることができる。歌唱表現ではパートナーソングを用いた合唱や二部合唱の活動を通して、声を合わせて歌う楽しさを味わえるようにする。また、器楽表現では、歌の旋律に楽器で副次的な旋律を合わせて響きを味わったり、音色の異なる楽器の組み合わせ方や各パートの重なりを感じとってバランスよく響き合う音を工夫したりしてみんなで合わせることの楽しさを味わえるようにする。鑑賞教材では、吹奏楽の響きや、主な旋律と対旋律の重なりを味わって聴くことができるようにする。

(3) 児童観

学級には音楽が好きな子どもが多い。音楽の時間や朝の歌活動に積極的に取り組む姿が見られる。秋に行われた音楽発表会に向けての練習では、合奏や合唱に意欲的に取り組み、表情豊かに演奏しようとして心がけていた。楽し気に音楽を聴いたり、音楽に合わせて指揮をしたりと演奏以外にも音楽に親しむ様子が見られるようになった。しかし、他の旋律を聴き合いながら合唱や合奏をしたり、美しい響き合いを楽しもうとする所までは至っていない。また、音楽に対する苦手意識が強い子どもも数名いる。

(4) 指導観

この題材の教材群は、声や音の重なりを表現したり、響きを味わったりする学習に適している。「パレード ホッポー」では、躍動的な前半の旋律と滑らかな動きが少ない後半部の旋律とを重ねることで美しい響きが生まれることを感覚的に感じさせていきたい。また、鑑賞教材の「きゆう友」「ファランドール～『アルルの女』第2組曲」を同時に取り上げ、躍動的な主なふしに対して滑らかなもう一つのふしが重なって響く様子に気づかせ、そのおもしろさや美しさを味わうことができるようにしたい。鑑賞で感じ取った、旋律が重なり合う響きのおもしろさや美しさを、歌唱教材に生かして指導していきたい。「パレード

ホッポー」で歌声が重なり合うおもしろさを味わった経験をもとに、二部合唱教材「冬の歌」で更に充実した合唱の響きを楽しむ活動へと進めていく。「冬の歌」では、更に歌声に楽器の音を加えて重なり合う音を楽しませたい。歌の主旋律に楽器による副次的な旋律を重ねて音の響きを楽しんだり、リズム伴奏を加えて歌と楽器がバランスよく響き合う音作りを経験させていきたい。

さまざまな活動を通して、互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら拍の流れやフレーズ・強弱・速度の変化などを感じ取って、響き合いの楽しさと共に曲想豊かに演奏する力を育てていきたい。

教材曲

- 「パレード ホッポー」 作詞 高木あきこ 作曲 平吉毅州
 「きゆう友」 作曲 タイケ
 「ファランドール～『アルルの女』第2組曲」 作曲 ビゼー
 「冬の歌」 作詞 中山知子 作曲 フリスト ネジャルコフ

3. 題材の評価規準及び指導計画

評価規準	ア 楽器の音や声の重なりに関心を持って、進んで聴いたり表現したりしようとしている。 [関心・意欲・態度]						
	イ 音の重なる美しさに気づいて、表現の仕方を工夫している。 [感受・表現の工夫]						
	ウ 重なり合う響きを感じて、美しい音や声で表現することができる。 [表現の技能]						
	エ 重なり合う旋律や音の美しさを感じ取って聴くことができる。 [鑑賞の能力]						
次	段階	学習活動	評価				
			評価規準	ア	イ	ウ	エ
一 (4)	◎旋律の特徴を感じ取って聴いたり、表現に生かしたりする。	①「パレードホッポー」を覚え、曲の気分を感じ取って歌う。「きゆう友」の2つのふしの変わり目を捉えながら聴く。	・歌詞や2つの旋律の違いを感じ取って、進んで表現したり聴いたりすることができる。	◎		○	○
		②「パレードホッポー」の前半と後半の旋律の違いを感じ取ったり、特徴を生かした歌い方を工夫したりする。「きゆう友」の主なふしともう一つのふしの違いを聴き取って、その違いを身体活動で表す。	・2つの旋律に合った歌い方を工夫することができる。 ・感じ取った二つの旋律の違いを身体活動で表すことができる。		○	◎	

	<p>◎旋律の重なりを感じ取って聴いたり、表現を工夫したりする。</p>	<p>③ (本時)</p> <p>「きゆう友」の二つのふしが重なり合った時の響きの美しさやおもしろさを味わいながら聴く。</p> <p>「パレードホッホー」で曲調の異なる二つの旋律を重ねた時の響きの美しさやおもしろさを感じ取りながら歌う。</p> <hr/> <p>④「パレードホッホー」の二つの旋律の特徴を生かしながら、響きのある合唱をする。他のパートナーソングを歌ってみる。</p> <p>「ファラドール」は「旧友」と同じように2つのふしが交互に演奏されたり重なり合ったりした曲であることに気づきその響きを味わいながら聴く。</p>	<p>・旋律が重なり合ったときの響きの美しさやおもしろさに気づくことができる。</p> <p>・曲調の異なる二つの旋律が重なり合う響きの美しさやおもしろさに気づき、旋律に合った歌声で表現することができる。</p> <hr/> <p>・音が重なり合う響きを感じながら、表現の仕方を工夫することができる。</p> <p>・「旧友」と同じ曲の作りであることに気づき、重なり合う響きを味わいながら聴くことができる。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <hr/> <p>○</p> <p>○</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <hr/> <p>◎</p> <p>◎</p>		
<p>二 (2)</p>	<p>◎互いの楽器や声の重なりを聴きながら、美しい響きの合唱や合奏を工夫する。</p>	<p>①「冬の歌」を覚え、二部合唱をしたり、主旋律の歌声と副次的な旋律のリコーダーの音色との響き合いを味わったりする。</p> <hr/> <p>②「冬の歌」の旋律に合ったりリズム伴奏を作ったり、楽器の組み合わせを工夫したりする。また、歌とリコーダー、作ったりリズム伴奏とを組み合わせで演奏する。</p>	<p>・重なり合う響きを感じて、美しい音や声で表現することができる。</p> <hr/> <p>・音の重なり合う美しさを楽しみながら、表現の仕方を工夫することができる。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <hr/> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <hr/> <p>◎</p> <p>◎</p>		

4. 本時の指導

(1) 授業の構想

1時間目は歌唱曲「パレード ホッホー」鑑賞曲「きゆう友」との出会いの場として、曲の気分を感じ取って歌ったり、吹奏楽について知ったりする活動を行った。2時間目は、「パレード ホッホー」の前半と後半の旋律の感じの違いを捉えさせ歌い方の工夫をした。また、「きゆう友」では、主なふしともう一つのふしを聴き取ってその違いを身体表現で表す活動を行った。本時は、二つのふしが重なり合って響く様子を聴いたり表現したりしながら、歌唱曲・鑑賞曲の2つの教材で音の重なりを体験させていきたい。

(2) 本時の目標

・躍動的な旋律と滑らかな旋律という、曲調の異なる2つの旋律が重なり合う響きのおもしろさを感じ取りながら、聴いたり表現したりすることができる。

(3) 本時の判断基準

評価場面	A：十分満足	B：おおむね満足	C：支援を要する児童への手だて
鑑賞 二つの旋律の重なりを感じ取って聴く。	・躍動的な旋律と滑らかな旋律という曲調が異なった旋律を重ねることで美しい響きが生まれることを味わい、感想を述べたり身体活動をしたりすることができる。	・二つの旋律の特徴に気づき、重なりを感じ取って聴くことができる。	・旋律の変わり目を意識させながら聴かせ、身体活動でそれぞれの旋律の特徴に気づくことができるように支援する。
歌唱 二つの旋律の違いを感じ取りながら、旋律を重ねて歌う。	・互いの旋律を聴き合いながら、表情豊かに響きのある合唱をすることができる。	・二つの旋律の違いを意識しながら旋律に合った歌い方を工夫している。	・鍵盤ハーモニカの音に合わせて歌うように支援する。

(4) 本時の展開 (3/6)

	学習活動	教師の支援 (○) と評価 (★)
導入 (7)	1. 既習の曲を歌ったり、演奏したりする。 『ビリーブ』 『茶色のこびん』	○既習曲を歌ったり演奏したりして、音楽的雰囲気高める。 ★音楽活動を楽しみながら行っているか。

展開 2. 学習課題をつかむ。

学習課題

二つのふしの重なりを感じながら表現しよう。

3. 鑑賞曲『きゆう友』を聴く。

- ・「主なふし」を口ずさみながら聴く。
- ・「もう一つのふし」を口ずさみながら聴く。

- ・二つのふしの重なりを感じ取って聴く。
指揮をしながら聴く

- ・重なり的美しさやおもしろさについて気づいたことを発表し合う。

- ・ふしの重なりのおもしろさを味わいながら再び聴く。

4. 『パレード ホッホー』を歌う。

- ・指導用CDを聴く。

- ・学級を二つに分け、試しの合唱をする。

- ・グループ毎に練習する。

指揮者

鍵盤ハーモニカ

○前時の活動を想起させ、二つのふしの感じの違いについて確認する。

○主なふし→歯切れのよい感じ
もう一つのふし→滑らかな感じ
をおさえさせる。

○二つのふしを口ずさむときには感じに合わせた口ずさみ方ができるように支援する。

○主なふし→弾むような縦型の指揮
もう一つのふし→流れるような横型の指揮

二つの型の指揮で表現させる。

○二つの異なった曲調のふしが重なったときの響きのおもしろさや美しさを自分なりの言葉で表現させる。

○2回目は、自分の好きな表現方法で曲を味わいながら聴かせる。

★特徴ある二つの旋律の特徴を感じ取って言葉や指揮で表すことができたか。

○『きゆう友』と同じように二つの旋律が重なっていることに気づかせる。

○グループの分け方を工夫したり、鍵盤ハーモニカやリコーダーと合わせたりと形態を変えながら、繰り返し練習させる。

○アとイの旋律の違いを生かした歌い方ができるようにめあてを確認してから練習を始めさせる。

★めあてをもって練習できたか。

(33)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表し合う。 ・全体で合唱する。 	<p>★おたがいの声を聴き合いながら歌うことができたか。</p> <p>○ふしの重なり合いに焦点を絞って、相互評価をさせる。</p>
発展 (5)	<p>5. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想発表をする。 ・次時の学習内容を知る。 	<p>★二つの旋律が重なった響きの美しさを感じ取ることができたか。</p>